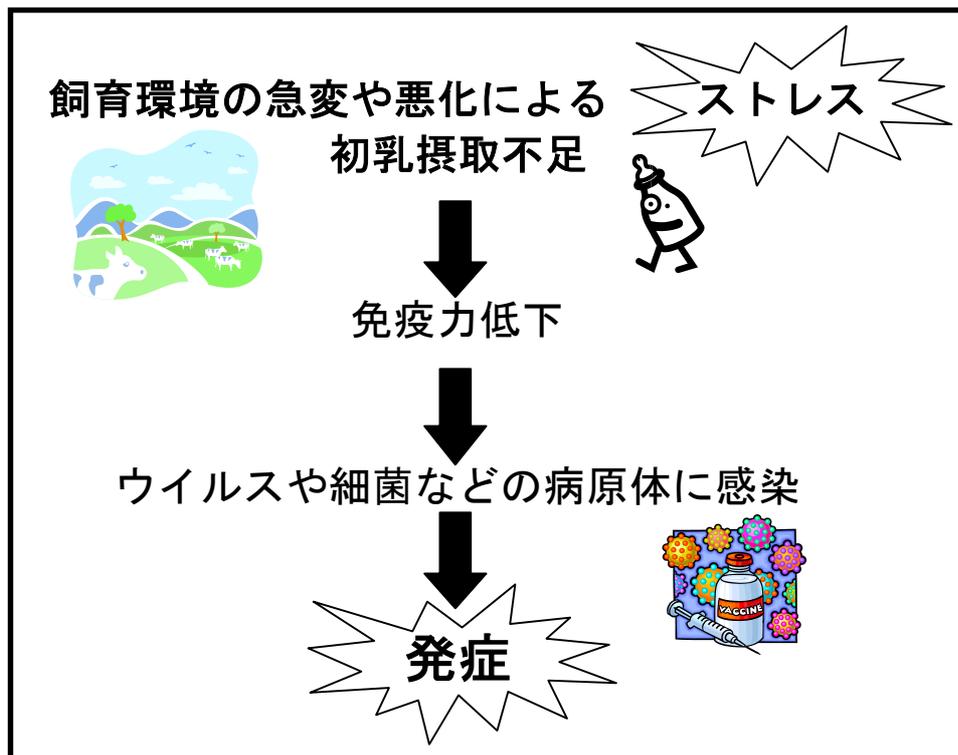


子牛の病気にご注意下さい！！

冬や季節の変わり目は、子牛の呼吸器病（肺炎など）や消化器病（下痢など）が起こりやすい時期です。子牛の状態はいかがですか？

★原因

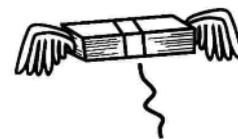


★子牛が病気になると・・・

治療費がかかる
増体が悪くなる



経済的損失！！



まずは、初乳を適切に給与し、衛生管理や防寒対策をしっかりと行い、病気の発生を減らすようにこころがけましょう。



裏にチェックシートがあります。
ぜひお試しください!!

★チェック項目

以下に病気を防ぐためのチェック項目を挙げてみました。できる所から少しずつ取り組み、子牛の病気の発生を減らしていきましょう!!

牛の免疫	ワクチン	<input type="checkbox"/> 分娩前の母牛と子牛にワクチンを接種 →母牛：下痢・呼吸器病、子牛：呼吸器病												
	初乳対策	<input type="checkbox"/> 初乳を適切な時期に適切な量給与 →初乳や水はお腹を壊さないよう、温めて与える												
		<input type="checkbox"/> 凍結初乳または粉末初乳を常備 →母牛の初乳が使えない場合に備えて												
環境	保温	<input type="checkbox"/> 保温ベストやネックウォーマーの使用 →子牛にとって $20 \pm 5^{\circ}\text{C}$ が適温 → 5°C 以下で発育停滞												
		<input type="checkbox"/> 遠赤外線ヒーターやハロゲンランプを常備 →出生直後や下痢・風邪の子牛は体温低下が起きやすく保温が必要												
		<input type="checkbox"/> ハッチやシートを活用し、隙間風が直接当たらないようにする →風が当たると体感温度が低下（風速 1m/秒で 4°C 減少）												
	衛生管理 (呼吸粘膜保護・ストレス防止)	<input type="checkbox"/> 床が乾燥し、敷料が十分入っている →床が湿っていると体温が奪われる →床替えを怠ると尿による刺激臭（アンモニア臭）の原因に												
		<input type="checkbox"/> ほこりが立ちにくい敷料を使用 →細かい素材の敷料が気管に吸い込まれると肺炎の原因に												
		<input type="checkbox"/> 十分な換気												
		<input type="checkbox"/> 牛舎内で鼻がツンとするような刺激臭（アンモニア臭）の発生防止 →アンモニアが呼吸器粘膜を傷つけ、病原菌に感染しやすくなる												
		<input type="checkbox"/> 適切な飼育密度 →過密飼育は牛にとってストレス →衛生管理も行き届かなくなる												
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="2">1頭辺りの飼育面積の目安</td> </tr> <tr> <td></td> <td>乳牛</td> <td>肉牛</td> </tr> <tr> <td>単飼</td> <td>2.4m²</td> <td>2.0m²</td> </tr> <tr> <td>群飼</td> <td>5.5m²</td> <td>5.4m²</td> </tr> </table>		1頭辺りの飼育面積の目安			乳牛	肉牛	単飼	2.4m ²	2.0m ²	群飼	5.5m ²	5.4m ²
			1頭辺りの飼育面積の目安											
	乳牛	肉牛												
単飼	2.4m ²	2.0m ²												
群飼	5.5m ²	5.4m ²												
<input type="checkbox"/> 定期的な消毒 →理想的には月1~2回、特に移動などで空になった時														

愛知県西部家畜保健衛生所

TEL(0569)72-0344 FAX (0569)72-2770

